### EPA 看護師の臨床経験の把握について

EPA 看護師の強みや今後の課題について理解を深め、看護師としての成長に必要な研修を計画 するために、基本的姿勢や看護技術等の経験について、入職時に把握をすることが必要である。 母国における臨床経験については、母国の看護教育・文化習慣・病院環境等の背景となる情報も 考慮しながら、面談等により確認をする。また、看護師資格取得前の看護師候補者時代の経験に 関しては、当時の研修担当者による意見も参考となりうる。未経験やできないことのみに焦点を 当てるのではなく、母国の実践状況や看護師候補者時代の経験を踏まえた強みを確認することも 重要である。

※各項目については、厚生労働省の「新人看護職員研修ガイドライン（改訂版）」を参考にしている

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  | 母国における経験 | 看護師候補者 時代の経験、 １. 経験あり ２. 経験なし |
| １. 母国で実践していた２. 母国で実践する機会 （がなかった３. 母国では看護師の実践する技 術・業務 ではない | 関連情報 例 . 母国での教育 文化習慣、病院環 境、医療機材等に ついて） |
| 看護職員として必要な基本姿勢と態度 | 看護職員とし ての自覚と責 任ある行動 | ①医療倫理・看護倫理に基づき､ 人間の生 命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する |  |  |  |
| ②看護行為によって患者の生命を脅かす危 険性もあることを認識し行動する |  |  |  |
| ③職業人としての自覚を持ち、倫理に基づ いて行動する |  |  |  |
| 患者の理解と 患者・家族と の良好な人間 関係の確立 | ①患者のニーズを身体・心理・社会的側面 から把握する |  |  |  |
| ②患者を一個人として尊重し、受容的・共 感的態度で接する |  |  |  |
| ③患者・家族にわかりやすい説明を行い、 同意を得る |  |  |  |
| ④家族の意向を把握し、家族にしか担えな い役割を判断し支援する |  |  |  |
| ⑤守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮 する |  |  |  |
| ⑥看護は患者中心のサービスであることを 認識し、患者・家族に接する |  |  |  |
| 組織における 役割・心構え の理解と適切 な行動 | ①病院及び看護部の理念を理解し行動する |  |  |  |
| ②病院及び看護部の組織と機能について理 解する |  |  |  |
| ③チーム医療の構成員としての役割を理解 し協働する |  |  |  |
| ④同僚や他の医療従事者と適切なコミュニ ケーションをとる |  |  |  |
| 生涯にわたる 主体的な自己 学習の継続 | ①自己評価及び他者評価を踏まえた自己の 学習課題をみつける |  |  |  |
| ②課題の解決に向けて必要な情報を収集し 解決に向けて行動する |  |  |  |
| ③学習の成果を自らの看護実践に活用する |  |  |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  | 母国における経験 | 看護師候補者 時代の経験、 １. 経験あり ２. 経験なし |
| １. 母国で実践していた２. 母国で実践する機会 （がなかった３. 母国では看護師の実践する技 術・業務 ではない | 関連情報 例 . 母国での教育 文化習慣、病院環 境、医療機材等に ついて） |
| 看護技術について | 環境調整技術 | ①温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、 病室整備の療養生活環境調整 |  |  |  |
| ②ベッドメーキング |  |  |  |
| 食事援助技術 | ①食生活支援 |  |  |  |
| ②食事介助 |  |  |  |
| ③経管栄養法 |  |  |  |
| 排泄援助技術 | ①自然排尿・排便援助 |  |  |  |
| ②導尿 |  |  |  |
| ③膀胱内留置カテーテルの挿入と管理 |  |  |  |
| ④浣腸 |  |  |  |
| ⑤摘便 |  |  |  |
| 活動・休息援 助技術 | ①歩行介助・移動の介助・移送 |  |  |  |
| ②体位変換 |  |  |  |
| ③廃用症候群予防・関節可動域訓練 |  |  |  |
| ④入眠・睡眠への援助 |  |  |  |
| ⑤体動、移動に注意が必要な患者への援助 |  |  |  |
| 清潔・衣生活 援助技術 | ①清拭 |  |  |  |
| ②洗髪 |  |  |  |
| ③口腔ケア |  |  |  |
| ④入浴介助 |  |  |  |
| ⑤部分浴・陰部ケア・おむつ交換 |  |  |  |
| ⑥寝衣交換等の衣生活支援、整容 |  |  |  |
| 呼吸・循環を 整える技術 | ①酸素吸入療法 |  |  |  |
| ②吸引（口腔内、鼻腔内、気管内） |  |  |  |
| ③ネブライザーの実施 |  |  |  |
| ④体温調整 |  |  |  |
| ⑤体位ドレナージ |  |  |  |
| ⑥人工呼吸器の管理 |  |  |  |
| 創傷管理技術 | ①創傷処置 |  |  |  |
| ②褥瘡の予防 |  |  |  |
| ③包帯法 |  |  |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  | 母国における経験 | 看護師候補者 時代の経験、 １. 経験あり ２. 経験なし |
| １. 母国で実践していた２. 母国で実践する機会 （がなかった３. 母国では看護師の実践する技 術・業務 ではない | 関連情報 例 . 母国での教育 文化習慣、病院環 境、医療機材等に ついて） |
| 看護技術について | 与薬の技術 | ①経口薬の与薬、外用薬の与薬、直腸内 与薬 |  |  |  |
| ②皮下注射、筋肉内注射、皮内注射 |  |  |  |
| ③静脈内注射、点滴静脈内注射 |  |  |  |
| ④中心静脈内注射の準備・介助・管理 |  |  |  |
| ⑤輸液ポンプ・シリンジポンプの準備と 管理 |  |  |  |
| ⑥輸血の準備、輸血中と輸血後の観察 |  |  |  |
| ⑦抗菌薬、抗ウィルス薬等の用法の理解 と副作用の観察 |  |  |  |
| ⑧インシュリン製剤の種類・用法の理解 と副作用の観察 |  |  |  |
| ⑨麻薬の種類・用法の理解と主作用・副 作用の観察 |  |  |  |
| ⑩薬剤等の管理（毒薬・劇薬・麻薬、血 液製剤を含む） |  |  |  |
| 救命救急／処 置技術 | ①意識レベルの把握 |  |  |  |
| ②気道確保 |  |  |  |
| ③人工呼吸 |  |  |  |
| ④閉鎖式心臓マッサージ |  |  |  |
| ⑤気管挿管の準備と介助 |  |  |  |
| ⑥外傷性の止血 |  |  |  |
| ⑦チームメンバーへの応援要請 |  |  |  |
| 症状・生体機 能管理技術 | ①バイタルサイン（呼吸・脈拍・体温・ 血圧）の観察と解釈 |  |  |  |
| ②身体計測 |  |  |  |
| ③静脈血採血と検体の取扱い |  |  |  |
| ④動脈血採血の準備と検体の取り扱い |  |  |  |
| ⑤採尿・尿検査の方法と検体の取り扱い |  |  |  |
| ⑥血糖値測定と検体の取扱い |  |  |  |
| ⑦心電図モニター・１２誘導心電図の装 着、管理 |  |  |  |
| ⑧パルスオキシメーターによる測定 |  |  |  |
| 苦痛の緩和・ 安楽確保の技 術 | ①安楽な体位の保持 |  |  |  |
| ②罨法等身体安楽促進ケア |  |  |  |
| ③リラクゼーション技法 |  |  |  |
| ④精神的安寧を保つための看護ケア |  |  |  |
| 感染予防技術 | ①スタンダードプリコーション（標準予 防策）の実施 |  |  |  |
| ②必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガ ウン等）の選択 |  |  |  |
| ③無菌操作の実施 |  |  |  |
| ④医療廃棄物規定に沿った適切な取扱い |  |  |  |
| ⑤針刺し切創、粘膜暴露等による職業感 染防止対策と事故後の対応 |  |  |  |
| ⑥洗浄・消毒・滅菌の適切な選択 |  |  |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  | 母国における経験 | 看護師候補者 時代の経験、 １. 経験あり ２. 経験なし |
| １. 母国で実践していた２. 母国で実践する機会 （がなかった３. 母国では看護師の実践する技 術・業務 ではない | 関連情報 例 . 母国での教育 文化習慣、病院環 境、医療機材等に ついて） |
| 看護技術について | 安全確保の 技術 | ①誤薬防止の手順に沿った与薬 |  |  |  |
| ②患者誤認防止策の実施 |  |  |  |
| ③転倒転落防止策の実施 |  |  |  |
| ④薬剤・放射線暴露防止策の実施 |  |  |  |
| 死亡時のケアに関する技術 | ①死後のケア |  |  |  |
| 管理的側面について | 安全管理 | ①施設における医療安全管理体制につい て理解する |  |  |  |
| ②インシデント（ヒヤリ・ハット）事例 や事故事例の報告を速やかに行う |  |  |  |
| 情報管理 | ①施設内の医療情報に関する規定を理解 する |  |  |  |
| ②患者等に対し、適切な情報提供を行う |  |  |  |
| ③プライバシーを保護して医療情報や記 録物を取り扱う |  |  |  |
| ④看護記録の目的を理解し、看護記録を 正確に作成する |  |  |  |
| 業務管理 | ①業務の基準・手順に沿って実施する |  |  |  |
| ②複数の患者の看護ケアの優先度を考え て行動する |  |  |  |
| ③業務上の報告・連絡・相談を適切に行 う |  |  |  |
| ④決められた業務を時間内に実施できる ように調整する |  |  |  |
| 薬剤等の管理 | ①薬剤を適切に請求・受領・保管する（含 毒薬・劇薬・麻薬） | 、 |  |  |
| ②血液製剤を適切に請求・受領・保管す る |  |  |  |
| 災害・ 防災管理 | ①定期的な防災訓練に参加し、災害発生 時には決められた初期行動を円滑に実 施する |  |  |  |
| ②施設内の消火設備の定位置と避難ルー トを把握し患者に説明する |  |  |  |
| 物品管理 | ①規定に沿って適切に医療機器、器具を 取り扱う |  |  |  |
| ②看護用品・衛生材料の整備・点検を行 う |  |  |  |
| コスト管理 | ①患者の負担を考慮し、物品を適切に使 用する |  |  |  |
| ②費用対効果を考慮して衛生材料の物品 を適切に選択する |  |  |  |